

地理情報標準講演会「国際標準と地理情報標準第2版」開催報告

(社)日本写真測量学会関西支部・講演会実行委員会

1. 講演会開催にあたって

関西支部では、さる5月29日に地理情報標準講演会「国際標準と地理情報標準第2版」を、国土交通省国土地理院近畿地方測量部ならびに地理情報システム学会の後援を得て、総勢約200名の参加者を集め、ぱるるプラザ京都において開催した。

地理情報標準とは、異なるシステム間で整備された空間データを相互利用するために定めたデータ交換方法のことである。標準化では、国際標準化機構(International Organization for Standardization: ISO)が地理情報の標準化を図るための専門委員会(Technical Committee: TC211)を1994年に設置し、地理情報に関する標準の検討を進めている。国内では、ISOにおける標準案を踏まえて、民間企業53社と国土地理院による官民連帯共同研究「GISの標準化に関する調査研究」の成果として、平成10年度末(1999年)に我が国初の地理情報標準(第1版)がまとめられた。さらに民間企業との共同研究「地理情報標準の運用に関する研究」により地理情報標準の改定・更新と運用に関する具体化が進められ、平成13年度末(2002年)には第2版がまとめられた。

このような背景から、関西支部では、前述の「地理情報標準の運用に関する研究」において設置された地理情報標準推進委員会・地理情報標準検討部会のワーキンググループでリーダーを務められた方々を中心に、地理情報標準に関する内外の動向をさまざまな角度から詳細に解説していただく標記講演会を実施した。また、この企画は、関西支部の目指す「情報発信を関西から」の一環でもある。

2. 講演会の概要

講演会開催にあたっては、以下に示すメンバー構成で実行委員会を組織し、講師依頼からプログラムの構成といった準備から、資料作成や開催事務などを担当した。

- 委員長 吉村充則(総合地球環境学研究所)
副委員長 稲葉和雄(国土地理院近畿地方測量部)
 清水啓治(株かんこう)
委員 木村雅俊(内外エンジニアリング株)
 〃 庄林典秀(内外エンジニアリング株)
 〃 藤堂正裕(国際航業株)
 〃 須江次郎(国際航業株)
 〃 小野直樹(株パスコ)
 〃 山下 恵(科学技術振興事業団)
 〃 熊谷樹一郎(摂南大学工学部)

(注: 所属は、講演会当日のもの)

また、資料として事前に下記の資料を準備し、参加者に配布し、理解を深めていただくよう心がけた。

- 1) プログラム
- 2) 講演資料の縮刷版
- 3) 「地理情報標準の入門」(日本測量調査技術協会発行)
- 4) 写真測量学会 PR パンフレット
- 5) アンケート用紙

講演テーマと講演者について、以下に記す。

午前の部 司会： 清水啓治 (株)かんこう 地理情報センターGIS 企画室長)
「地理情報標準国際標準化の動向」
稲葉和雄(国土地理院近畿地方測量部 ISO/TC211 国内委員会幹事長)
「空間データの構造・符号化・描画法」
村尾吉章(日本アイ・ビー・エム(株) 地理情報標準検討部会 WG1 リーダ)
「空間データの品質・空間参照」
三宅敏和(元 (株)NTT データ 公共地域ビジネス事業本部 地理情報標準検討部会 WG2 リーダ)

午後の部 司会： 清水啓治
「地物カタログ化法・メタデータ・用語」
太田守重(国際航業(株) 地理情報標準検討部会 WG3 リーダ)
「製品仕様書作成マニュアル」
木村雅俊(内外エンジニアリング(株) 地理情報標準推検討部会 WG4 リーダ)
「オープン GIS コンソーシアム (OGC) が進めるデータ交換実験」
岡本茂明 ((株)ドーン 取締役)
(注：所属は、講演会当日のもの)

講演に続き、地理情報システム学会関西地方事務局長でいらっしゃる大阪工業大学工学部・吉川眞教授に司会進行をお願いし、6名の講演者をパネラーとして「地理情報標準が描く未来像」をテーマとしたパネルディスカッションを行った。

パネルディスカッションでは、

- 1) 地理情報標準の業務への関わり ～新たな市場の拡大へ～
- 2) プロファイルの作成 ～地理情報標準を育てる～

といったふたつのテーマに基づいて、パネラーの皆さんそれぞれの立場(作る側・使う側・ベンダー・発注側等々)からコメントをいただき、その後参加者の皆さんからの意見をいただいた。

地理情報標準は、これから実施されるさまざまな GIS 関連業務のスムーズな展開に対して貢献していかなければならないこと、それによって GIS インテグレータなどの新しい業種が生まれるのではないかと期待や、標準は我々が育てていかなければならないなど、数多くの意見がコメントや会場から出され、予定時間を超過して活発な議論が交わされた。

3. アンケート集計結果から

講演会開催にあたり、参加者がどのようにして開催を知ったか？どのような年齢層・職種の方々が集まったか？さらにどのようなことを知りたいか？などを知るためにアンケート調査を行った。回収率は、75.8%だった。

(1) 地理情報標準講演会の開催を何でお知りになりましたか (複数回答可)

インターネットを見て：4名
電子メールによる案内を見て：50名
雑誌を見て
写真測量とリモートセンシング：2名
測量：3名
ポスターを見て：1名
知人・友人の紹介：26名
その他
無記入3名
faxによる案内を見て：2名
社内回覧を見て18名

会社命令 : 2名
測量協会からの案内を見て : 3名
府県の測量設計業協会からの案内を見て : 6名
主催者からの紹介 : 1名
郵便案内 を見て : 3名
その他 2名

関西支部では、毎年、支部講演会や空間情報 WG などいくつかの行事を企画している。ここ数年間にこれらの行事に参加者された方々からは、電子メールのアドレスをお教えいただいております。案内などは基本的に電子メールで通知している。今回の講演会にも、この地道な情報集積の結果が反映しているものと思われた。また、国土地理院近畿地方測量部を通じて、府県の測量設計業協会などにも案内をお願いした。Fax や郵便案内などがこれに該当するものと考えられ、電子メディアだけでなく、こういった情報伝達も重要であることを再認識することとなった。

(2) 今回の地理情報標準講演会は、あなたが地理情報を理解する上で有意義でしたか

とてもよかった : 19名
よかった : 72名
悪くはなかった : 21名
つまらなかった : 0名

この結果から、講演会は、おおむね参加者からの理解が得られたものと判断できる。

(3) あなたの年齢層は

20 歳代 : 24名
30 歳代 : 44名
40 歳代 : 35名
50 歳代 : 11名
60 歳代 : 1名

30 歳代の参加者が最も多く、地理情報標準は中堅技術者にとって重要な項目であることが推測できる。

(4) あなたの職種は(自由記載)

測 量 : 42名
建設コンサル : 17名
システムエンジニア : 6名
GIS システム開発 : 6名
教育・研究関係 : 4名
管理職・役員 : 5名
会社員 : 3名
営業 : 3名
GIS サービス業 : 3名
マッピング : 3名
学生 : 2名
ソフト販売 : 2名
GIS データ作成・整備 : 2名
データウェア構築 : 1名
データサービス : 1名
業務企画 : 1名

土 木：1名
公務員：1名

自由記載であるので、必ずしも的確な分類にはなっていないが、地理情報標準は、必ずしも情報を作る測量業界だけの話題ではなく、さまざまな分野において必要なものとなっていっくだろうことが想像できる。

(5) さらに詳しく話しを聞きたい内容は何か？(フリー)

全体で 49 項目のコメントが寄せられており、すべてを記載できないが、地理情報標準に沿ったデータ作成や、仕様書・空間データの品質評価に関連したコメントが 10 件あり、参加者の多くがすでに実行ベースでの検討を始めていることがわかった

4. 最後に

当初参加者 100 名を目標に掲げ準備を行ってきた本講演会であるが、実際には事務局・講演者を含めて実に約 200 名もの参加者にお集まりいただき、盛況に終了することができた。これも、講演者並びに参加者皆様のご協力の賜物である。ここに紙面をお借りしてお礼申し上げます。
(文責：吉村充則)